

令和3年度新ニーズに対応する九州がんプロ養成プラン 離島・僻地病院実習

実習生：中村 奈都美

実習先：長崎県対馬病院

実習期間：令和3年12月16日 ～ 令和3年12月27日

実習生の感想

上下するプロペラ機に翻弄されながら長崎県対馬病院に向かいました。

「揺れるからね。絶叫マシンが好きならきっと楽しいよ」幾度か対馬に足を運んだご経験がある先生から伺ったとおり、激しく上下するプロペラ機はジェットコースターを避け続けた私にとって最初の難関でした。酔わなかった！と妙な達成感に包まれながら対馬空港に降り立ったところ、お迎えに来てくださった職員の方曰く「今日は穏やかで良かったですね」だそうで、あれで穏やとは...と震えあがりながら長崎県対馬病院に向かったことを昨日のように思い出します。

長崎空港から25分程度、島の最大長は約70km、人口約3万人の対馬にある同院は島全体の医療を担う拠点病院です。病床数275床、医師数35名、25の標榜科目に歯科は含まれていないため、外科所属の実習生として2週間を過ごすことになりました。



実習にあたって「自身の背景を活かした視点で臨床見学および実習に参加する」という目標を立てました。以前勤務していたがん専門病院は、口腔内トラブルの予防・対処に特化した業務を主としており、患者情報は基本的にカルテから収集していました。そこで

- ①総合病院の役割と特徴を学ぶ
- ②検診・診察/IC/治療などの実際を知る
- ③口腔に関連する諸問題を知り、機会があれば積極的にサポート介入を行う

以上3点を特に学びたいと考えて実習に臨みました。



対馬病院外科の基本的な1日の流れは、午前7:30頃から新患や外科手術の共有を行い、病棟をラウンド。午前8:30頃一旦医局に戻り、医局カンファで1日の医師の割り振りや会議の有無など伝達事項を整理します。午前9:00頃から外来診療を行い、初診・再診・検診など実施、昼休憩をはさみ午後は手術と病棟ラウンド、日によって院内勉強会やCancer Boardが開催されていました。本来1か月の実習期間が設けられるところ、新型コロナウイルス感染症の影響により2週間となった今回の実習では、できる限りたくさんの経験を積んでほしいという病院側の計らいにより非常に濃密な時間を過ごすことができました。特に印象的だった内容を4項目にまとめます。

1.外科手術見学（S状結腸癌に対する腹腔鏡下手術）

患者入室から手術開始までの一連の流れを見学しました。事前準備から現場でのコミュニケーションまで関連職種が連携し、極力患者負担が少なく安全に施術できるよう尽力している姿が印象的でした。

口腔領域以外の外科手術に立ち会った経験はほとんどなかったため、滅菌ガウンや滅菌グローブ

の装着手順や手術室内での清潔不潔に留意した動線の確認、麻酔実施の手順やモニタリング等を学ぶ貴重な機会になりました。また、別日に行われた直腸脱患者の手術（Gant-Miwa法+Thiersch法）や、鼠径ヘルニア手術（TAPP法）では人工靭帯やメッシュなどの人工材料が活用される場面を見学することができました。現在は医療機器メーカーに勤務しているため、材料の操作性や医療経済性など、過去、資格取得のために経験した実習とは全く異なる視点で知見を得ることができました。



2. 訪問看護同行およびALS患者に対する口腔ケア実施

ALSの患者さん宅への訪問看護に同行させていただきました。口腔内乾燥や痲痺付着がみられたため、顔面および口腔のマッサージと歯ブラシによる歯面清掃を行いました。

原疾患の筋萎縮に伴う疼痛緩和としてオピオイド服用中のため悪心が発現していましたが、口腔ケアに対する拒否は無く終始穏やかな表情をなさっていたことが印象的でした。患者宅までは片道約50分かかります。医療機関へのアクセスが困難な状態にある患者さんにとって、痛みのコントロールや悪心などの症状に細かく寄り添う訪問看護がいかに心強い存在であるかを目の当たりにしました。



3. 上対馬病院見学

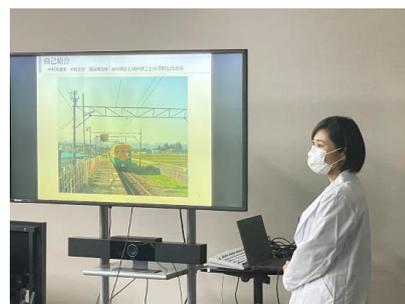
対馬病院から約65km離れた上対馬病院で、外来診療の見学や入院患者さんの口腔ケアを行いました。また上部消化管出血疑いの患者さんを対馬病院に緊急搬送する場面にも立ち会いました。上対馬病院でも内視鏡検査はできますが、緊急事態が発生した際に十分な対応が難しいため搬送するというご判断でした。医療設備が限られている離島の病院では、目の前の出来事のだけでなく全体の要素を俯瞰して対応を決めることが重要であると学びました。この姿勢は、患者さんの全身状態を鑑みてサポートを行うがん支持療法に通じるものがあると感じました。



4. 口腔ケア勉強会の実施

外科の中嶋先生のご提案により、口腔関連のトラブルに対応することが多い看護師さんに向けて口腔ケア勉強会を行う機会をいただきました。

口腔乾燥症や口腔内出血、放射線化学療法時に起こりやすい口腔内症状などについてお話ししました。ご参加いただいた外来化学療法認定看護師、訪問看護師、理学療法士の方々からは、舌苔除去や保湿の方法、口腔カンジダ症などについてご質問いただき、できるだけ具体的に製品名や使用方法についてお伝えしました。普段看護師さん達がいかに口腔管理に留意なさっているかを知ることができたとともに、改めて医科歯科連携の必要性を感じました。



【今後の予定：臨床・研究等】

私の研究テーマは骨吸収抑制剤使用患者にみられる薬剤関連性顎骨壊死の予防方法を検討することです。骨吸収抑制剤は特にがんの骨転移に対し高濃度高容量で使用されるため、がん治療やがん患者さんについてより深く学びたいと考え、がんプロの受講を決めました。

地域拠点病院として多方向から島民の方々を支える対馬病院での実習は、がん医療を含む様々な医療現場の実際を学べたのみならず、診療を通して島民の方々の生活を知る貴重な機会にもなりました。魚骨の誤嚥による消化管穿孔は地域性に深くかかわっていますし、以前は術中迅速診断ができないために乳がん手術ができなかったという環境的な課題もあったそうです。

これらに対し、医療機器の設置やOSNA法の導入など、新しい技術や知見を取り入れて地域差を無くそうと尽力なさる先生方の姿に感銘を受けるとともに、私自身も研究を通してがん患者さんが安心して生活できる一助を担いたいと決意を新たにしました。

また、初めて訪れた対馬という地の魅力も知ることができました。積極的に実習生を受け入れてくださる先生方や職員の皆様の温かさに触れ、新鮮な海産物に舌鼓をうち、上対馬に行った際は韓国展望台や和田都美神社まで足を延ばすこともできました。強風のおかげで雲一つない青空の元、寒さに頬を赤くしながら蟹気楼のように韓国釜山眺めたこと、海中にそびえる鳥居に神々しさを感じたこと、滞在中に目にした美しい景色はいまもありありと思い描けます。

このような経験を得る機会をくださった指導医の中嶋先生、竹下先生をはじめとした対馬病院の先生方、職員の皆様、がんプロ関係者の方々に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。



実習報告会の様子

